

「悪からお救いください」

朝毎にメールで届く「御言葉と祈り」、ここ3年間、届かない日は一日もなかった。10月1日の御言葉には、内村鑑三の短文が添えられていた。

秋は来た。私は聖書に帰ろう。地の書ではなくて天の書である聖書に帰ろう。肉の書ではなくて霊の書である聖書に帰ろう。教会の書ではなく人類の書でありある聖書に帰ろう。しかも自由の精神をもってこれに帰ろう。学者の態度をもってこれに帰ろう。そして神と永生(かぎりなきいのち)についてさらに少し知るところがあろう。(一日一生から)

それに続いて、「10月になりました。秋の虫、爽やかな風に一息つきながら、衣類、寝具、部屋の模様替えなどを進めています。今年の祈りと御言葉のノートを見返してみると、”一日一日イエスさまと一緒に歩んでくださった”ことが分かります。聞かれた祈り、祈り続けている祈り、全ては御心の中にあるのだなあと今一度感謝しました。」とあり、その後にはいつも、多くの人の名を挙げて執り成しの祈りが記されている。

主の慈しみは決して絶えない。

主の憐れみは決して尽きない。

それは朝ごとに新たになる。

あなたの真実はそれほど深い。哀歌 3:22-23

朝ごとに、集会ごとに、主の真実を味わい知らされるこの喜びが、どうか届きますように。

昨夜、「デッドマンウォーキング」という映画(録画)を夫が見ているのを、家事をしな

がらチラチラ見ている、後半は座って真剣に見た。死刑囚と修道女との交流。実話らしい。前半はほとんど見ていないから分からないが、画面に死刑囚の過去の犯行のシーンがくり返し出てきて、怒りが込み上げてくるというか、こんなに簡単に人を殺しておいて、自分が死ぬとなると、やれ裁判だ、人権無視だと大騒ぎする人間の身勝手さに腹が立って・・・。

だが最後には、修道女に犯行の事実をありのまま告白する死刑囚。殺した二人のために祈り、処刑台では被害者遺族に心からの謝罪をするに至って、ここまで向き合い導き続けた修道女の祈りと、導かれないと望んだ死刑囚の切なる思いと、二人の真実に圧倒される思いだった。

ところがその後、死刑囚の最後の言葉、「人を殺すのは間違っている」は、何を意味していたのだろうか、自分が殺したのも間違っていたが、こうして国家権力で殺されるのも間違っている、と言いたかったのだろうか。それでは、自分が殺したという罪をどこまで悔いていたのかと、複雑な思いになって、自分のこととして考えてみた。

この人が死刑になったのは、ある日のある出来事のためであり、それがこの人の人生のすべてだと決せられた。これは怖いと思った。私の人生のある部分を切り取って、それがあなたのすべてだと言われたら、どうなるのだろう。

この間、イエスさまに会いたいと、マルコ福音書を読んで、そうか、イエスさまは悪霊と戦われたのだと改めて驚嘆した。宣教を始められる前、まず、「サタンから誘惑を受けられた」。マルコ福音書でのイエスさまの最初の働きは、汚れた霊に取りつかれた男から汚れた霊を追い出し、その後も「イエスは、いろいろな病気にかかっている大勢の人たちをいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にものを言うことをお許しにならなかった」とある。12 弟子を選ばれたのも、「彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった」。ゲラサの地では、墓場に

住む狂人に「汚れた霊、この人から出て行け」と言って救い出し、悪霊に息子を殺され
そんな父親の「信じます。信仰のないわたしをお助けください」との言葉に、「わたしの
命令だ。この子から出て行け。」と悪霊を追い出された。

目には見えなくても、天の父なる神様がおられるように、悪魔も実在する。人間が、ど
んなに清く、正しく生きようとしても、悪魔は人を堕落の中に引っ張り込もうとする手を
やすやすと離しはしない。自分の罪に気づかせてくださるのが神様なら、嘘偽りで覆い、
悪を悪とも思わせないのが悪魔の働き。

人の悪をどんなに責めても、憎んでも、たとえその人を死刑にしても、その人に働い
た悪霊に人は太刀打ちできない。悪魔の置き土産である、憎しみは増すばかり。

イエスさまの教えてくださった祈りを真剣に祈ろう、

「私たちが試みに遭わせず、悪からお救いください。」マタイ 6-13

パウロの呼びかけを本気で聞こう、

「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に
対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、
血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸
霊を相手にするものなのです。」エフェソ 6:10-12

そして、悪霊が入る余地がないように、自分のために、隣人のために、絶えず祈ろ
う。

「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」ルカ 11:13

日毎に聖霊で満たしていただこう。一度イエスさまを信じて生活を正しても、心は
日々刷新されなければ、すぐに濁ってしまう。

「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからな
い。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。戻ってみると、空き家になっており、掃

除をして、整えられていた。そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を一緒に連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。この悪い時代の者たちもそのようになろう。」マタイ 12:43-45

この悪い時代へのイエスさまの警告をおろそかにはすまい。